

Title	多品種少量化に対応する生産管理への提言 - 鉄鋼メーカーD社の事例研究 -
Sub Title	
Author	井上博文(Inoue, Hirofumi) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第455号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0455

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 井上博文 主査 小野桂之介
(大同特殊鋼株式会社) 副査 古川公成
所属ゼミナール 小野桂之介 研 柳原一夫

多品種少量化に対応する生産管理への提言 —鉄鋼メーカーD社の事例研究—

今日、企業の生産活動をめぐる環境は大きく変わりつつある。特に、鉄鋼に代表される市場の成熟化は、顧客の需要を多様化させる。それは、生産品目を増大させるだけでなく、納期の短縮を要求し、さらに、競争の激化を通じてコストダウンの圧力要求をも高めることになる。こうした生産品目の増加、納期の短縮化、コストダウンという3つの相矛盾する要請は、放置すればいずれも生産活動の効率低下を招くものであり、この圧力は、多くの産業分野で今後も益々強まるものと考えられる。

こうした圧力に対応しながら、生産活動の効率を維持向上するには、生産システム自体の構造改革というハード面からのアプローチと、生産管理システムの工夫によるソフト面からのアプローチとがある。

本論文では、上記のうちソフト面での改善に焦点を当て、特殊鋼メーカーD社H工場の事例を中心としながら、この多品種少量生産化がもたらす3つの非効率化圧力を効率よくこなす方法を探索した。

より具体的には、一部の生産品目に関する「OPポイントの選択的繰下げ」と「品目グルーピングの選択的適用」という2つの変数を操作することにより、多品種の品目を生産しながら、納期面での改善を実現し、あわせて、企業利益面での向上を図る、という可能性を追求した。その結果、D社H工場の場合、上記の効率化を図る余地がまだ十分に存在することを明らかにすると共に、こうした改善を進めてゆく上で、参考になるいくつかの一般的示唆を得ることができた。